



外務省日誌

自明治四年第六號  
至同 年第十二號

特 別  
力5  
4289  
3





門カ  
號 4299  
卷 3



夕 ル 謝 詞 往 翰 三 丁	一 米 國 公 使 へ 紀 州 往 吉 元 船 頭 等 難 船 救 助 ヲ 受	申 付 ル 云 々 來 翰 二 丁	一 白 耳 義 公 使 ヨ リ 領 事 ス ト 口 一 ス へ 事 務 代 任	雇 入 ル 、 二 付 陸 行 免 狀 差 遣 ス 返 翰 一 丁	一 獨 逸 譯 司 へ 和 歌 山 麓 雇 入 ノ 教 師 其 書 記 方 ヲ	謝 詞 返 翰 一 丁	一 米 國 公 使 へ 森 有 禮 彼 國 へ 到 着 厚 キ 接 待 ノ 段	往 復 書 翰 目 録	日 誌 辛 未 第 六 号
--------------------------------------	--	---	--	---	--	----------------------------	--	----------------------------	---------------------------------

早稲田 大學 圖書館  
昭和 30.6.8  
藏 書







外務省日誌

明治四年辛未第六号

自三月十五日

三月十五日

洋曆一千八百七十一年第五月四日

○米國公使へ返翰

千八百七十一年第四月二十四日附貴簡致落  
 手候然ハ少辨務使森有禮儀無恙貴國都府へ  
 到着貴政府ニ於テ厚ク御接待有之候旨貴國  
 執政ヨリ御報知ノ條拙者ニ於テモ右御懇親  
 ノ段致感佩候乃チ我政府へ建言及ヒ候此段  
 回答如此御座候以土



辛未三月十五日

外務卿

米利堅合衆國特派全權公使

チャールズ・ス・イ・デロング閣下

○獨逸譯司へ返翰

御手紙致披見候然ハ和歌山藩へ為兵學教師

被雇居候貴國人カツピン氏此度へルム氏ヲ

書記方ニ被相雇近日同氏横濱出帆兵庫ヨリ

和歌山迄陸行致候ニ付右陸行免狀御請求ノ

儀御申越ノ趣致承知候則其段其筋へモ相違

シ免狀差進候間御落手可被成候右回答如此

1020 (Y 11 特製)

御座候

辛未三月十五日

外務大少丞

ケンポルマン貴下

十六日

○白耳義公使ノ來翰廿返五翰日在

以手紙致啓上候然ハ於東京白耳義領事スト

ロース氏へ書面相渡シ其條目ニ関スル事務

同人へ委托致シ候間拙者代任ト御心得御引

合被下度且其他兩國交際ノ儀ニ付我政府希

望ノ旨趣モ同人ヨリ閣下へ可申入旨命ニ置



候間同人ヨリ委細御聞取可被下候且又白耳  
 義國ニ於テハ武器鐵道器械織物等他國ヨリ  
 猶良好ノ品ヲ製シ價直モ廉ニ出來候ニ付御  
 用モ候ハ、貴政府ノ御爲筋ニ可相成又教育  
 向ノ事ニ付テハ文學武術礦山耕芸稼商等諸  
 藝術ノ爲ニ別段學校ヲ設ケ教育致シ學費モ  
 他國ヨリハ輕ク修行出來候ニ付貴政府ヨリ  
 歐洲へ爲留學御遣ニ相成候生徒ノ内我國へ  
 毛御分配相成御差越相成候ハ、大ニ御爲筋  
 ニモ可相成哉且一ツニハ我國ノ様子モ御了

解相成兩國交通更ニ親密ニ可相成儀ト被存  
 候且我國ニ於テハ職業耕業稼商等ヲ勤メ親  
 疎ナク各國ト貿易セシテ望ミ候ニ付於東  
 京白耳義領事ムールロニ氏是迄貿易向等諸  
 事取扱候通り此後ハストロース氏諸事引受  
 候右可得貴意如此御座候謹言  
 千八百七十一年第五月五日  
 在橫濱  
 白耳義國特派全權公使  
 オーゴストフキントローゲンヘーキ、



外務卿

外務大輔

閣下

十七日

○米國公使へ往翰

以手紙致啓上候然ハ我客歲十一月申紀州新

宮下里村住吉丸船頭新吉以下三人伊勢白子

崎邊ヨリ難風ノ夕メニ大洋ニ漂流殆ト困危

ニ及候處貴國「ア」ン子イスム「ル」私ノ船將シ

「イ」ハツクル氏ノ救助ニヨリ「サ」ン「フ」ラン

シ「ス」コニ安着致シ種々厚意ニ預リ飛脚船ニ

乗換へ去ル我二月七日横濱港へ歸着致候段

神奈川縣ヨリ報知有之并「サ」ン「フ」ラン「ス」コ

我領事官ブル「ク」ス代アルム「ス」ヨリモ書

簡差越委曲致承知其趣我政府へ申入候處全

ク貴國船將ハツクル氏ノ光庇ニヨリ我國四

人ノ生命ヲ保存候儀實ニ所感謝候依之右謝

辭閣下迄申進候間ハツクル氏へ可然御通達

有之度此段可得貴意如此御座候以上

三月十七日

外務卿

米利堅合衆國特派全權公使



チャールズ・イ・デロング閣下

十八日

○英國公使へ往翰

以手紙致啓上候然ハ貴國「オントレ」ル船航海  
中西班牙國所屬「キヤム」島へ被立寄候處我國人  
多人數同島ノ苦役ヲ受居候者有之右船司「テ  
イロ」ル氏厚意ヲ以テ右ノ内四人横濱港迄  
被連越神奈川縣廳へ被引渡候旨同縣ヨリ我  
政府へ申立右船司「テイロ」ル氏懇篤ノ段於  
政府深ク感銘満足ニ被存右厚謝閣下迄可申

1020 (YH特製)

述旨被命候ニ付尚閣下ヨリ我政府ノ謝意テ

「イロ」ル氏へ御傳告被下度存候猶「キヤム」嶋

へ残り居候者共引戻ノ儀同氏取扱被吳候趣

ニモ候間右ハ何レ神奈川縣知事ヨリ御依頼

可申ニ付此旨モ「テイロ」ル氏へ兼テ御傳聲

被下度候此段可得御意如此御座候以上

辛未三月十八日

外務卿

大貌列顛國特派全權公使

「サア」ハルリ「パーク」ス閣下

十九日



○丁抹ヲユ一スノ來輪廿返九輪日在

以手紙致啓上候然ハ北海道ニ鑛山相開候儀

閣下ノ御意見見相伺貴國政府ニテ御異存モ無

之候ハ、拙者取懸申度過日右之趣在函館開

拓長官東久世殿迄相願候処右ハ東京ノ

太政官へ相願候方可然旨御答書有之候ニ付

別左ノ趣閣下へ相願候

函館内大野ト稱スル村落ノ近邊ニ鉛ヲ産ス

ル鑛山アリテ既ニ舊幕ノ項鑛工ヲ起シタリ

シカ強チ利益ナシトテ先年其工ヲ廢シタリ

然ルニ拙者右鉛鑛更ニ相開申度左ノ約束ニ

テ御許容被下候ハ、難有奉存候

第一 大野ノ鉛鑛并其近邊ニテ鉛鑛ヲ見出

ス事アラハ其所ヨリモ之ヲ掘出ス事

第二 鑛工ノ期限ハ二十年ト定メ其期限終

ラハ政府へ返却可致事

第三 一割ノ租稅ヲ政府へ可納事

第四 相當ノ輸出稅ハ運上所へ可納事

第五 貴國政府ニテ拙者ヨリ右鉛ヲ買入ル

、共又ハ買入サルトモ勝手次第ノ事



第六

大野近邊ノ山ヨリ鑛穴ノ支匠ニ用フ  
ル材木ヲ伐リ取或ハ石炭ヲ掘出シ之  
ヲ用フルヲ許サレ、事尤材木ハ百コ  
クニ付十五兩ノ割合ヲ以テ税銀相納  
可申候

第七

鑛場ニ工場ヲ建テ建築方并鑛夫ノ  
住家ヲ造ル事ヲ許サレ地方官ニテ故  
障ヲナサレ事

第八

拙者ノ雇入タル者ノ外誰ニテモ右鑛  
業ニ関ル事ナク家屋ヲ管ム事ヲ不被

許事

第九

鑛場ヨリ大野迄大野ヨリアレ川迄運  
送道ヲ開キ其所ヨリ小舟ニテ函館迄  
運繕スル事

右ノ趣御異存ノ有無或ハ右ノ外何歟尊慮ノ  
趣モ有之候ハ、拙者拜姿ノ節御教示被下度  
奉願候右可得貴意如斯御座候以上

千八百七十一年第五月八日

在東京

函館住人



ジヨニエツチ予ユース

外務大輔閣下

再伸右貴答ノ儀ハ東京貌列顛領事館ニテフ  
ノシハポルト迄御投與可被下候以上

廿一日

○英國公使へ返翰

我二月三十日附貴翰致料見候然ハ近日貴國

海軍歩兵三百人ヲエトウエニチヤア海軍附屬

ノ船ニ乗組長崎港へ來航纔時破泊ノ間兵卒

運動ノ夕ノ上陸遊歩被致度候ニ付相當ニ取

扱候様御申越ノ趣委曲致承知候乃チ其旨長

崎縣へ相達シ不都合無之様致下令置候此段

回答可得御意如此御座候以上

三月廿一日

外務卿

大貌列顛國特派全權公使

サアハルリ、パルクス閣下

廿二日

○外務權大丞丸山作樂福井藩へ御預被仰付

廿五日

○米國公使へ往翰



以手紙致啓上候然ハ此程海軍爲修業貴國ハ  
 差遣候生徒共是迄ノ學科并身分等ノ次第ニ  
 依リ夫々被取扱方ニ有之候ニ付委細御承知  
 被成度趣御説諭ニ付其段兵部省ハ問合候處  
 別紙ノ通り申越候間則差進申候可然貴國共  
 筋ハ御書送有之度致依頼候此段可得御意如  
 此御座候以上  
 辛未三月廿五日  
 外務卿  
 米利堅合衆國特派全權公使  
 チャーレス・イ・デロング閣下

別紙  
 熊本藩士族  
 横井然平伴  
 英學出來但通辨出來兼候  
 船具名所算術點竄出來  
 横井平次太郎  
 右運用航海并將帥學修行為致度候  
 鹿兒嶋藩士族  
 故有馬新七伴  
 英學共未熟  
 有馬幹太郎  
 右同斷  
 廣嶋藩士族



英學出來但通辨出來兼候  
具名所算術點竄出來

曾根直之進

右學校教示方專門

福井藩士族

英學修行中竄出來

上坂多賀之助

右運用航海術

右之通

廿七日

○英國公使へ返翰

我三月八日附貴翰致披見候然ハ閣下於我國

貴國皇帝陛下ノ特派全權公使ノ職務被勤候

事最早六ヶ年近ク相成候ニ付今般御歸國被

成度段貴政府へ御申立ノ處御許容相成御歸

帆被成候ニ付我

天皇陛下へ為御暇乞參 内被成度旨并閣下

御留守中ハ書史アダムス氏代理公使ノ職務

被勤候段等御申越ノ趣致承知候就テハ我來

廿九日第一字御參 朝可有之候其段御承知

有之度尤當日為嚮導我官員貴館迄差出可申

且御參 朝手續前以御打合申度候ニ付本日

水野外務少丞差出候間御打合有之度此段回



答旁可得御意如此御座候以上

辛未三月廿七日

外務御

大貌列顛國特派全權公使

十、ハ、ル、リ、一、パ、一、ク、ス、閣、下

○米國公使ノ復翰

去ル第四月廿七日并當月十四日附貴簡兩通

落手致被見候然ハ今般貴國兵部省ヨリ海軍

學科為修業我國ハ生徒御差遣相成候ニ付右

添書可差遣旨云々御教示ノ趣致承知候則閣

下ヨリ別紙御添拙者ハ御遣ニ相成候貴簡封

入我國執政ハミルトン、フ、ン、氏ハ本日一簡相

贈リ右生徒可然場所ニテ修行シ各學科上達

相成候様公私共世話致吳候様頼ニ遣ニ右ノ

外別ニ右生徒ハ添書相渡候旨ヲモ申遣置候

間則別紙添書一通差出申候右生徒ハ御渡シ

有之自ラ華盛頓府ハ携行相成候様御取計有

之度存候右可得貴意如斯御座候以上

千八百七十一年第五月十六日

在橫濱

米利堅合衆國特派全權公使



チャールズ・インダロング

外務大輔

閣下

廿九日

○大貌列顛國特派全權公使歸國ニ付參朝

但勅語等太政官日誌ニ出ツ

○英國公使ハ返輪

我三月三日附ノ貴翰落手致披見候然ハ去ル

正月廿五日夜貴國軍艦伊豆岬ハ近寄候節同

所篝火相見候ニ付船將シンジヨシ氏ヨリ披

申出候ニ付以來ハ同所篝火再燒無之様嚴重

下命可致旨等云々御來喻ノ趣致承知候就テ

ハ其筋相糺候處右篝火ノ儀ハ我客歲正月元

日ヨリ廢止致シ其爾來焚火候儀ハ曾テ無之

シンジヨシ氏披見受候ハ我廻船入港目的ノ

夕メ燈明臺ノ外別ニ舊來小燈明堂取設有之

候間其燈火ニ相違無之右小燈明堂廢止候テ

ハ我廻船入港甚迷惑ノ趣ニハ候ハ共外國船

是カタメニ針路取誤リ候儀有之候テハ困難

毛難計ニ付我二月十八日ヨリ小燈明堂ノ點



火ニ差止置候旨其筋ヨリ申越候就テハ右籌  
火再燒候ニ無之段ハ御了解有之度候此段回  
答可得御意如斯御座候以上

明治四年辛未三月廿九日 外務御

大貌列顛國特派全權公使

サア、ハルリ、パークス閣下

○獨逸公使ノ來翰 月返三翰 日在四

以手紙致啓上候然ハ拙者少時我國政府ノ暇

ヲ受ケ歸國ノ夕メ來ル我ニ十二日當地出帆

可致候就テハ留守中我公使館事務荷蘭國公

使ゾンドル、フー、ン、氏取扱申候間以後ノ御  
書簡ハ總テ我公使館へ向右ゾンドル、フー、ン、  
ン、氏名宛ニテ御遣シ被下度存候左ノ段可得  
御意如此御座候以上

千八百七十一年第五月十八日

獨逸北部

エム、フォン、ブランド

外務御

外務大輔 閣下

○白耳義公使へ送翰



千八百七十一年五月五日附貴簡落手致被  
 見候然ハ貴國領事閣下ノ代任トシテ御接對  
 可申旨御來示ノ段致了承候尤折々拙者ハ御  
 面談被成度儀有之同氏御出張ノ節拙者差支  
 候ハ、大少丞ノ内ニテ應接可致候將又貴國  
 ニ於テ製造被致候諸器械織物等他國ヨリ善  
 良ナル旨并諸學科ニ付生徒教育向等ノ儀縷  
 々御申越致承知候諸器械織物等向後入用モ  
 候ハ、御依頼申候儀モ可有之候且貴國ハ留  
 學生徒分配ノ儀等御申越ノ趣其筋ハ及通達

置候右ハ何レモ御厚意ノ段深ク所謝候未文  
 東京貴國領事ムルロクニ氏兼テ貿易向諸事  
 取扱被居候通爾後ストロクハ氏被引受候趣  
 ヲモ御申越是亦致承知候右回答可得御意如  
 此御座候以上  
 辛未三月廿九日  
 外務大輔  
 外務御  
 白耳義國特派全權公使  
 ヲキニスト、フキンロ、デニベ、キ閣下  
 〇丁抹、スヘ返翰



以手紙致啓上候然ハ我本月廿三日附回答ヲ  
 以申進候通り北海道ニ於テ鉛鑛開業ノ儀其  
 筋ハ申立候處鑛山ノ儀ハ追々規則相立候儀  
 ニ付何分難差計旨沙汰有之候就テハ折角ノ  
 御企望ニハ候ハ共右ノ次第ニ付及御斷候此  
 紋可得御意如此御座候以上

辛未三月廿九日

外務大少丞

丁抹國

ジヨ、エツ、キ、ジ、エ、ノ、ス、貴、下

外務省日誌辛未第七号

往復書翰目錄

- 一 獨逸公使ハ歸省ニ付留守中荷蘭公使ハ事務
- 一 委託ノ旨承諾ノ返翰一丁
- 一 獨逸公使ハ兵部省ヨリ戰地爲見分差遣ス官
- 員懇切ノ周旋ヲ受ル段謝詞往翰
- 一 獨逸譯司ハ客歲公使館ハ忍ヒ入シ盜賊落着
- 申遣往翰ニ丁
- 一 英國公使ヨリ新律細領ヲ受ル謝詞并彼國刑
- 律書目申越來翰四丁







外務省日誌

明治四年辛未第七号

至自十四月二日

四月二日 洋曆千八百七十一年第五月二十日

○ 獨逸公使へ返翰

千八百七十一年第五月十八日附ノ貴札致拜  
 見候然ハ今般閣下貴政府ノ暇ヲ受ケ御歸國  
 被成候ニ付來ル貴國ニ十二日横濱御出帆ノ  
 趣并御歸省中貴國公使館事務ハ荷蘭公使ヲ  
 ンデルフエニ氏取扱被申候旨委曲致承知  
 候爾後御來示ノ通り同公使名宛ニテ萬事御



打合セ可及候右回答可得御意如斯御座候以上

辛未四月二日 外務御

獨逸北部聯邦代理公使

エム、フォン、ブラン、ド、閣下

○獨逸公使へ往翰

以手紙致啓上候然ハ先般貴國ト佛國トノ戰

争中我兵部省官員池田彌助兩人實地巡觀ノ

タノ貴國へ罷越シ候處貴政府ニ於テ外務官

ヲス、タ、フ、オ、フ、シ、ル、名官、ブラ、ン、ド、氏、ニ、右、周、旋、ヲ

被命并ニスナイドル氏ヲ案内者ニ被申付候

由如此御懇切ノ御取扱ニヨリ戦迹残りナク

檢察歸國致シ候致唯其者ノ幸ノミニアラズ

實ニ我政府ノ所満足不堪感謝候右ノ趣今般

閣下御歸國相成候ハ、貴政府へ可然御披露

相願度候將又右ブラント氏スナイドル氏へ

右周旋ノ挨拶トシテ別紙目錄ノ通り品物相

添差進候間乍御面倒夫々謝辞御傳へ御達方

御依頼致シ候此段可得御意如此御座候以上

四月二日

外務御



別紙目錄略ス  
エムフォンブランド閣下

○獨逸譯司へ往翰

以手紙致啓上候然ハ我客歲貴國公使館春桃  
院へ忍入候盜賊長沼昌吉儀今般於刑部省吟  
味話ノ上別紙ノ通り罪科申付候間此段及御  
報知候且同人竊盜品ノ内賣先不分明ノ品物  
ハ兼テ御面晤ニ縷々相悉シ置候通りニ有之  
依テ同人賣拂候代金都合金札九兩三朱御引

渡申候尤右賣先不分明ノ品調書共相添へ差  
進候間御查收有之度存候此段得御意度如此  
御座候以上

辛未四月二日

外務大少丞

獨逸北部聯邦譯司

ケンプルマン賣下

長沼昌吉盜品ノ内賣先不  
相知代金取  
上ノ分

一古履

三足

代金四兩壹分三朱也



一 古絹傘

壹本

代金壹兩壹分也

一 履下

八足

代金二分也

一 小銃

壹挺

代金三兩也

合金九兩三朱

右之通

科書

仙臺藩士族

長沼文吉第

長沼昌吉

右ノ着儀麻布春桃院孝國公使館ハ兩度忍入

其度々小銃其外盜取候始末不届ニ付庶人ニ

下シ准流十年申付ル

辛未三月

刑部省

三日

○英國公使ノ復翰往此翰往翰ト翰同下文各國ナリノ

貴國去月廿七日附ノ書翰落手候然ハ貴國ニ

テ此度編集相成候貴國新律綱領一部被差贈



謝入候就テハ我英國刑律ノ綱領書類標題御承知被成度趣承知則別紙刑法書標題目錄差進追テ我政府へ申立貴國政府へ差進候様可致存候右ノ趣可得御意如斯御座候以上

大貌列顛國時派全權公使

四月三日

外務御閣下

廿アハルリ、パークス

アルチポルト氏著

一 クリミナルスタチエトス 刑律書

英國刑律書目錄

ロスクリー氏著

一 デイゲスト、オスクリミナルケーシス

刑律ニ係ル羅馬法ヲ集メタル書

一 ルツセル、オインク、ライムス、エンドンミスデミ

イノルス

罪科及ヒ過失ヲ処スル事ヲ記ス

七日

○ 各國公使へ往翰

以手紙致啓上候然ハ今般我國刑律書類取調へ新律綱領ト題シ改メテ頒布致シ候右ハ唯



其要領ヲ掲ケ候迄ニ候ハ共御心得ノ夕又一部差進候尤追々編輯大成ノ上ハ尚可差進候就テハ貴國政府ニテ方今御施行被成候刑律ノ細領ヲ編輯セ<sub>ル</sub>書類可有之<sub>ト</sub>御面倒此等ノ諸書名貴國語ヲ以<sub>テ</sub>垂<sub>示</sub>被<sub>下</sub>度御頼申入候右可得御意如此御座候以上

明治四年辛未四月七日 外務御

佛蘭西國  
荷蘭國  
獨逸北部聯邦  
西班牙國  
奧地利國

八日

○米國公使ノ來翰十返五翰日在

以手紙致啓上候然ハ拙者儀今般關下ニ在留ス<sub>ハ</sub>キ特派全權公使ニ被任候ニ付



天皇陛下ニ拜謁右手書御手渡致度則右手書  
ノ寫相添此段相願候右可得御意如此御座候  
以上

千八百七十一年第五月二十六日

米利堅合衆國

チャールズ・イ・ダロング

外務卿

外務大輔

閣下

別紙國書寫

米利堅合衆國大統領ヲリッセス、エスガラント

日本大天皇ニ述フ

今度余我國民チャールズ、イ、デロングヲ選テ  
閣下ニ在留スベキ合衆國ノ特派全權公使ニ  
任シタリ此者ハ兩國ノ利益ヲ知り我懇親ノ  
交誼猶堅固ナラン事ヲ欲スル誠心ヲ知ル者  
ニシテ其為人篤實温厚正ニ兩國ノ慶福ヲ増  
進セシ事ヲ勉勵スヘキ者ナレハ必ス  
叡感アラシム事余敢テ疑フ容サル也故ニ宜ク  
此者ニ愛護ヲ垂レ我國ノタメニ陳スル件々  
并其懇親ヲ表シ



聖上ノ幸福ヲ祈ル趣ヲ迷ル時ハ總テ其意ヲ  
信用アラシキ事ヲ望ミ併テ  
大天皇ノ安寧ヲ祈ル  
紀元千八百七十一年第四月十七日於華盛  
頓府

クリッセスエスガラント手記

執政ハミルトンウ井ス手記

○佛國士官へ往翰

以手紙致啓上候然ハ今般於山口藩兵式教師  
トノ貴國士官エロゼ氏雇入度旨申立候右ハ

我政府ニテ差支ハ無之候間同藩ト同人ノ相  
對ヲ以テ談判為政候積リニ有之候此段外務  
御ノ命ニ依リ申進候間貴公使へ御通達有之  
度左可得御意如此御座候以上

辛未四月八日 外務大少丞

佛蘭西國公使館

ジブスケ貴下

九日

○英國公使ノ來翰

以手紙致啓上候然ハ追々長崎表佛國領事可



任答ニ候ハ共當分ノ内我英國代辦領事工ニ  
 スレハ氏ハ佛國領事代可相勤様致下命且新  
 潟表合衆國領事未夕在留不致候間同所在留  
 我英國代辦領事ツルツラ氏同國人民周旋可  
 致様致下命置候尤合衆國人民取締可致權ハ  
 相與ハ不申候此段可得御意如此御座候以上  
 四月九日  
 大貌列顛國代理公使  
 エフオアダムス  
 外務御閣下  
 ○英國書史ハ往翰在復次翰

以手紙致啓上候然ハ小原因獄權正等香港ハ  
 罷越候ニ付先日貴公使ハ安戸刑部少輔ヨリ  
 御面晤ノ節御頼談ノ趣ヲ以テ通辨ノ者雇入  
 ノ儀云々申進置候ハ共未夕御回答無之然ル  
 処右ハ雇入候儀ニハ無之貴公使御厚意ヲ以  
 テ一時貴國ホル氏ヲ御借受申候御約束ノ  
 由ニ有之就テハ旅費其外御打合ニ致度近日  
 刑部省官員一人當省官員同道御館ハ差出度  
 候間何日頃罷出御差支無之候哉及御間合候  
 此段可得御意如此御座候以上



辛未四月九日

外務大少丞

大貌列顛國日本事務書史

工ル子ストトウ貴下

○英國書史ノ復翰

貴翰致披見候然ハ小原因獄權正等香港へ被

遣候ニ付我公使ノ厚意ヲ以テ一時我國出

ル氏御貸申候約束ニ有之就テハ旅費其外御

打合被成度ニ付刑部省官員一名當館へ御出

張有之度依テ日限ノ儀御問合ノ趣致承知候

來ル十二日午後第二字差支無之候間左様御

承知其筋へ御通達有之度右為御回答如此御  
座候以上

大貌列顛國公使館

四月九日

工ル子ストトウ

外務大少丞貴下

○米國領事ノ來翰月返三翰日在五

以手紙致啓上候陳ハ文雅ナルカルフルニヤ

住民ホラース、工、フ、コ、トル氏ヨリ差越候紙包

一ツ差上申余右包中ニコ、トル氏ヨリ

天皇陛下へ捧候書翰一通装入有之候尤右書



翰中ニハ米國人トノミ相記シ敬意ヲ表スル  
 タメ同人名前ハ相記シ無之候且又右書翰ヲ  
 何卒正敷日本語ニ御譯シノ上此美麗ナル書  
 籍ヲ同人ヨリ  
 天皇陛下ヘノ獻上物トシテ一同閣下ヨリ御  
 獻納被成下候様拙者マテ願出候猶又コトル  
 氏儀親懇且敬意ヲ奉表候微ト可相成物ヲ相  
 撰候事ニ付殊ノ外苦心仕右獻上物ヲ裝飾致  
 シ候儀ニ御座候就テハ右御受納ノ御回答拙  
 者迄此郵船ノ歸便ヲ以テ御差越被下候様相

1020 (YH特製)

願申候扱又コトル氏ハ  
 天皇陛下ノ寫眞御像頂戴致度希望罷在候趣  
 及承居候間若壹枚同人ヘ下賜リ候ハ、同人  
 ニ於テハ實以テ大悅可仕奉存候貴國ヲ稱賛  
 シ且  
 天皇陛下并貴國人民ヲ仰慕致シ候者ハ無  
 此上賜物ト相成幾久敷尊敬可仕奉存候右得  
 貴意度如此御座候以上  
 千八百七十一年第五月朔日  
 亞米利加カルフォルニヤ、サニフラン



シスコ在留

大日本領事

チャルレス、ウォルコット、ブルックス

大日本東京

外務大輔閣下

○米國人コットルノ來翰

奉

日本天皇陛下書

今度當港ニ相達シ候珍奇ナル新板ノ日本昔

話ト題スル書籍一卷ヲザンフランシスコニ居

住米國人敬テ

陛下ニ捧ク右書籍中ニハ貴國ノ驍勇及愛國

ノ情ノミナラス慈愛禮讓アル事ヲ稱賛致シ

有之候明瞭ニ御座候此書籍米國及ヒ歐洲中

ニ流布致候ハ亞細亞中ニテ大ニ開化致シ

候貴國ト右國民ノ交際ヲ親密ナラシムベキ

一端ト相成可申候ハ

歡感アラシキ事ヲ信シ此輕微ノ獻物受納シ玉

ハン事ヲ希望ノ至奉存候恐惶敬白

千八百七十一年第四月二十五日



於サンフランシスコ

十二日

○外務少丞水野良之免本官

十三日

○壤地利公使ノ復翰

當七日御贈ノ貴簡致披見候然ハ今度於貴國

刑律御取調相成新律綱領ト被為題候書籍御

遣シ萬謝ノ至存候尚爾來御編輯ノ上御遣シ

ノ趣致承知候且我國政府ニ於テ方今施行致

シ候刑律書名我語ヲ以テ可申進旨ニ付即チ

我國首府維也納ニ罷在候外務宰相ハ右書籍

相廻シ候様申遣シ候間到着次第可差進候右

貴謝旁此段申進度如此御座候以上

壤地利國代理公使

四月十三日 ハンリ、フォニカリツ子

外務御閣下

十四日

○外務權大丞丸山作樂免本官

○獨逸公使ノ來翰 十返五翰 日在

以手紙致啓上候然ハ新潟ヨリ罷越候獨逸國



人ウエバ<sub>1</sub>氏儀陸地ニテ東京ヨリ新潟へ罷  
 歸度旨願出候就テハ閣下御懇切ヲ以テ右免  
 許御與へ被下厚ク御手當御警衛被成遣候様  
 相願候右ノ段可得御意如此御座候以上  
 千八百七十一年第六月一日

北荷蘭兼獨逸公使

フ、ン、ドル、フ、ー、フェ、ン

外務卿

外務大輔

閣下

外務省日誌辛未第八号

往復書翰目錄

- 一 英國公使へ新潟領事東京へ出ルニ付其報知
- ナキヲ問フ往翰一丁
- 一 獨逸公使へウエバ<sub>1</sub>新潟へ歸港ノ儀免許ノ
- 返翰二丁
- 一 米國公使へ參朝期日申遣ス返翰全
- 一 澳地利公使ヨリ留守中事務取扱方云々來翰
- 三丁
- 一 英國公使ヨリ新潟領事東京へ出ルニ報知不



致旨 = 付復翰 四丁

一佛國公使ヨリ獨逸ト和談決約濟報知來翰 四

丁

一右返翰 五丁

一魯國領事ヨリ留學生ノ儀 = 付來翰 全

一魯國領事ヨリ東京ト箱館トノ間飛脚船取設

々度旨來翰 六丁

一荷蘭公使ヨリ橫濱へ丁抹軍艦入津 = 付同艦

指揮官接見ノ儀來翰 七丁

一英國公使へ工部省へ醫師雇入度旨申遣 八往

翰 八丁

一魯國領事へ留學生ノ儀返翰 九丁

一荷蘭公使へ丁抹軍艦指揮官接見ノ儀返翰 十

丁

一英國公使ヨリ工部省へ醫師雇入ノ儀 = 付復

翰 全

一丁抹領事ヨリ軍艦入津祝砲相發スル = 付答

砲ノ有無問合來翰 十一丁

一右返翰 全

一魯國領事へ箱館迄ノ飛脚船設々度旨申越 =



付返翰 十二丁  
 一丁 抹領事へ軍艦祝砲ノ儀往翰 十三丁  
 一獨逸譯司ヨリ出府中護送ノ儀頼越ス來翰 十  
 四丁  
 一伊太利公使ヨリ歸國留守中ブリニ一事務取  
 扱フ旨來翰 令

10 20 (Y H 特製)

外務省日誌 明治四年辛未第八号 自三月十五日

四月十五日 洋曆一千八百七十一年第六月二日

○英國公使へ往翰 十七日在

以手紙致啓上候然ハ新潟在留貴國領事ツル  
 | プ氏儀時派全權公使サハルリ | パ | ク  
 不閣下御歸國以前數件談話ノ筋有之候ニ付  
 急速陸路東京へ出立致度旨申立候處同公使  
 ヨリ同人へ陸行免許且當省へモ右ノ段御報  
 知有之候旨ノ返翰寫同廳へ差出候故同廳ニ



テハ既ニ許容相成候事ト心得許允致シ我三  
月廿二日同地出立致シ候趣同廳ヨリ申越候  
然ル處當省ハ何等ノ御報知モ無之ツル  
フ氏ヘノ御告知有之候儀ハ不可解儀ニ御  
座候一体右等ノ儀ハ一應御報告ノ上許否ト  
モ及回答候上ニテ御通達可有之筈ノ處何等  
ノ御手違ニ候哉委曲致承知度此段可得貴意  
如此御座候以上

明治四年辛未四月十五日

外務大輔  
外務卿

大親列願國代理公使

エスオアダムス閣下

○獨逸公使ヘ返翰

千八百七十一年第六月一日附貴翰落手然ハ  
先頃新潟表ヨリ來リ候獨逸國人ウエバハ氏  
今般同表ヘ陸行政シ度ニ付免許御請求ノ旨  
致承知候右ハ元來條約明文モ有之候ヘ共先  
頃當表ヘ來リ候節ノ事狀モ有之此度モ差急  
キ候公務ヲ奉シ候處差向船便モ無之哉ニモ  
承知致シ候間事情無餘儀事ニ被存候ニ付格



別ノ譯ヲ以テ陸行新潟表へ歸港ノ儀免許可  
致候尤護衛等ノ儀ハ東京新潟出張所へ申達  
候此段回答如此御座候以上  
辛未四月十五日  
外務卿

荷蘭兼獨逸北部聯邦公使

フランドル、フエ、ン閣下

○米國公使へ返翰

千八百七十一年第五月廿六日附御手紙致落

手候然ハ令般閣下特派全權公使ニ被任候ニ

付右國書捧呈ノタメ我

天皇陛下へ謁見被致度趣致承知候來ル我本  
月二十二日月即西曆六月右禮典取行候間第一字  
御參朝有之候様致シ度尤右刻限前我官員  
ノ内御旅宿へ為案内可差出候此段回答可得  
御意如此御座候以上

辛未四月十三日

外務大輔  
外務卿

米利堅合衆國特派全權公使

チャールズ、イデロ、シグ、閣下

十六日



○ 壤地利公使ノ來翰

以手紙致啓上候然ハ昨十五日爾後御面晤致  
シ候儀猶爲念申上候拙者暫時留守中貴國ヨ  
リ各國へ御談判等ノ事有之各公使悉ク同意  
ニ候ハ、拙者ニ於テモ同様ノ儀ニ有之若シ  
各國不同意ノ節ハ英國代理公使アダムス氏  
ノ意ニ從ヒ可申候尤留守中御手紙等御遣シ  
相成候節ハヘンリ―ホ―ン―シ―ホルト方迄御  
遣相成候様致度存候左候へバ同人ヨリ直ニ  
相届可申候各國御談判ノ趣ニ付即答無之候

1020 (YH特製)

へハ御不都合ノ儀モ有之候ハ、英國公使ア  
ダムス氏回答ノ趣ニ相從ヒ可申將亦即答ニ  
不及儀并我國ニ関シ候儀ハ拙者ヨリ御答可  
申候右可得御意如此御座候以上  
四月十六日 壤地利國代理公使  
ヘンリ―ホ―ン―カ―リ―ツ―子

外務御閣下

十七日

○ 英國公使ノ復翰

去ル十五日附ノ貴翰致落手候然ハ新潟在留



我英國領事勤方ツル  
ルリ、パークス許容有之候趣當方ヨリ御報  
知不申儀閣下ニ於テ不可解儀トノ趣致承知  
候右ハ公使既ニ出帆ノ儀ニ候ヘハ拙者ニ於  
テハ何共承知不致候間如何ニテ斯様ノ手違  
相生シ候ハ甚残念ニ存候向後我國領事官陸  
路ニテ貴國旅行ヲ要スル時ハ預メ御報知可  
申候右為回答可得御意如此御座候以上

四月十七日

大貌列顛國代理公使  
エスオアダムス

外務卿閣下

○佛國公使ノ來翰十返八翰日在

昨日到着致シ候飛脚船ヲ以佛國獨逸諸國ノ  
間ニ和談決約相濟候旨御報知相成候間早々  
閣下へ御報知申上候此段可得御意如此御座  
候以上

千八百七十一年第六月三日

佛蘭西國全權公使

マキシムウートレ

外務卿



外務大輔

十八日

○從七位土木權正平并希昌轉任文書權正

○佛國公使ハ返翰

西曆千八百七十一年第六月三日附貴翰致披

見候然ハ今般貴國ト獨逸國トノ間和談決約

相濟候旨御報知ノ趣致承知於賀ノ至ニ存候

此段回答可得御意如此御座候以上

辛未四月十八日

外務大輔

御

佛蘭西國全權公使

マキシムウートル閣下

廿一日

○魯國領事ノ來翰廿返四翰日在

以手紙致啓上候然ハ昨春我都府ハ貴政府ヨ

リ被差遣候傳習生二名到着ニ相成其内一名

ハ魯語僅ニ相辨シ右生徒我國留學中ハ無曠

日勉勵歸寧ノ上充分御國用ニ相立候程ノ修

業熟練致候様我外務局ニ於テ倡導可致候間

左様御承知可被下此段貴下方ハ宜可得貴意



旨我外務局ヨリ申越候右可得貴意如斯御座候以上

千八百七十一年第五月十九日

魯西亞國領事

ヲラロースキ

外務大少丞貴下

○魯國領事ノ來廿返七翰日在

以書翰致啓上候然ハ近曾新聞誌致一覽候處

東京橫濱神戸大坂其他ノ港へモ定式ノ飛脚

船御備ニ相成候由相見箱館ノ其内被差除

候儀如何ノ譯ニ候哉分リ兼申候箱館ハ右諸

港ニ比較候ハ互市モ盛大ニ有之間敷候ハ

共貴國交易場ニ於テハ上等ノ地位ニ屬シ且

蝦夷全島中第一ノ輻輳ニ候就テハ貴國都府

ヨリ定式ノ飛脚船相備候程ノ諸用無之場所

ニ候哉可相成ハ東京ト箱館トノ際ニ定式ノ

往來船毎月一回ニテモ御設被成度且御設備

ニ相成候ハ其段萬民承知致シ候様新聞誌

ニテ御發行相成度尤其船ニ托シ候書牘或ハ

其他物品等漕輪ノ運賃相納候儀ハ當然ノ事



二候段昨秋モ建言致置候其御返翰ニ貴下ニ  
 王拙者淺見御同意ニテ右ハ大事件ニ付蒸氣  
 船會社ニ御掛合ノ上右往來船御設備ニ相成  
 候様精々御取計有之候趣ニ有之然ル処其頃  
 ヲリ既ニ半年モ打過候ハ共何ノ御音信無之  
 加之他港ハ八定式往來船御設備ニ相成箱館  
 ノミ其内ヲ被差除置候故再回其趣貴下ハ致  
 呈露候右船御設備ノ儀最緊要ナルハ御存ニ  
 可有之今茲ニ不申述候間何卒右御設備ノ儀  
 御取計被下度昨年ノ通再ヒ相願申候御諾否

無違延貴答被下度候此段可得貴意如此御座  
 候以上  
 千八百七十一年第五月十九日  
 魯西亞國領事  
 フラロースキ  
 外務大少丞貴下  
 ○荷蘭公使ノ來翰廿返翰四日在  
 以手紙致啓上候陳ハ四日前丁抹國軍艦「フレ  
ガット形「トルデンスキ「トルト船當港ハ入津來  
 ル火曜日「我六日東京ハ趣キ申候附テハ同艦



ノ指揮官閣下へ御面會致シ度趣ニテ拙者へ  
 紹介ノ儀頼出候間同日御面會被下候哉又其  
 場所刻限ヲモ致承知度貴報相願候右ノ外甲  
 比丹ロンドント申着ヲモ御引合セ申度同人ハ  
 貴國ト歐洲ヲ接續スヘキ電信線ノ一部ヲ持  
 來リ海底ノ淺深測量致シ候者ニ有之候ハ  
 全世界ノ電線殊ニ貴國ヘノ電線ニ關ル件々  
 巨細ニ辨解可致者ニ有之候右可得如此御座  
 候也

千八百七十一年第六月八日

荷蘭國辦理公使

エフ、ペー、ファン、ドル、フー、フェン

外務御

外務大輔閣下

廿二日

○米國特派全權公使參朝

但公使口上并勅語等大政官日誌ニ出ツ

廿三日

○英國公使へ往翰廿復五翰日在

以手紙致啓上候然ハ我工部省鑛道造築ニ付



雇入候外國人數十名有之候處近來病患ニ相  
 罹ル者不少療養ノ方法夫々相施居候ハ共何  
 分行届兼候儀ニ有之内々承合セ候ニ貴國横  
 濱在留常備兵附外科醫師子アペル七ル氏治  
 療高手ノ聞工有之就テハ同省ニ於テ雇入度  
 趣申出候右ハ貴國ニ於テ御差支無之候ハ  
 同省ヨリ直ニ御引合ニ及候間其旨同氏ハ至  
 急御達相成度候此段御問合申進候間早々御  
 回答相願度右可得御意如此御座候以上

辛未四月廿三日

大貌列願國代理公使

エフオアダムス閣下

廿四日

○魯國領事ハ返翰

千八百七十一年第五月十九日附貴翰落手然  
 ハ先般貴國都府ハ差遣シ候我留學生兩人無  
 恙致到着候ニ付修業ノ儀貴政府ニ於テ厚ク  
 御世話被下候旨貴國外務局ヨリ御來報有之  
 候由御申越深ク致感謝候其段外務御ハ申通  
 候尚爾後貴下ヨリ其外務局ハ可然御依頼御



申通被下度候右回答如此御座候以上  
辛未四月廿四日  
外務大少丞

魯西亞國領事

ヲラロースキ一貴下

○荷蘭公使へ返翰

千八百七十一年第六月八日附貴翰致披見候

然ハ丁抹國「トルデンスキヲル」号軍艦指揮

官其外來ル火曜日廿我六四日出京被致候ニ付拙

者へ御面會被成度趣云々御申越ノ趣致承知

候然ル処拙者儀明廿五日横濱表へ罷越候ニ

付廿六日ハ迎モ御面晤難致廿八日ニハ致歸

府候積ニ付同日當省へ御越有之候ハ、午後

第二字ヨリ御面晤可致ト存候此段指揮官其

外へモ可然御申傳置可被下候右回答可得御

意如此御座候以上

辛未四月廿四日  
外務御

荷蘭國辦理公使

エスベールファンドルフ一フェン閣下

廿五日

○英國公使ノ復翰



去ル廿三日附ノ貴翰致落手候然ハ工部省ニ  
於テ横濱在留我軍常備兵附屬ノ醫官ペルセ  
ル儀被座度ニ付我政府ニ於テ差支有之哉否  
御承知被成度趣早速本國政府へ申立返答次  
第猶可申進候右為回答可得御意如此御座候  
以上

大貌列顛國代理公使

四月廿五日  
エフオアダムス

外務御閣下

○丁抹領事ノ來翰  
在返次翰

以手紙致啓上候然ハ丁抹國ブリグー止形軍  
艦明朝入津致候ニ付テハ同艦ノ船將御國旗  
ハ對シ祝砲相發シ候積ニ有之候處貴國砲臺  
又ハ御軍艦ヨリ御答砲ノ御用意相成居候哉  
否致承知度直様御回答有之度相願候此段得  
御意候以上

千八百七十一年第六月十二日

丁抹國總領事

イバウキール

外務省御中



○丁抹領事へ返翰

千八百七十一年第六月十二日附貴翰落手然  
ハ貴國「ブリゲ」形軍艦明朝入津可致旨御  
為知ノ趣致承知候就テハ同艦船將我國旗ハ  
對シ祝砲可相發ニ付我砲臺又ハ軍艦ニ答  
砲用意相成候哉否御問合セノ趣モ致承知候  
然ル處右軍艦入津ノ儀一昨日荷蘭公使ヨリ  
被申越候節外務御不在ニ付廿八日迄延日ノ  
儀御答申入置候ニ付明日ハ答砲ノ用意無之  
候此段回答如此候以上

1020 (Y日特製)

辛未四月廿五日

外務大少丞

丁抹國總領事

イバウキル貴下

廿七日

○刑部中判事津田真道兼任外務權大丞

○魯國領事へ返翰

貴國千八百七十一年第五月十九日附ノ御書  
翰致披閱候然ハ箱館港往來飛脚船可取設云  
々御申越ノ趣致了知候右ハ既ニ客歲御申越  
ノ砌詳悉御答申進候通り回漕會社ニ於テ已



其企有之候へ共乘組人并ニ積荷等ノ都合  
 ニヨリ相發候儀ニテ如來論同港ハ北海道第  
 一轄轄ノ地ニ有之候へ共何分定式運輸可致  
 程ノ荷品ニ無之神戸大坂等ノ定式有之候振  
 合ニ相設候儀難致遺憾ノ事ニ候乍去追々開  
 拓ヲ盛ニ致シ候上ハ産物相増人民往來繁ク  
 可相成ハ眼前ノ儀ニ付其頃ニ至リ候ハ貴  
 論ヲ不待郵船ノ定日ヲ設ケ彼我ノ便利ニ可  
 相供ハ勿論ニ候右回答可得御意如此御座候  
 以上

辛未四月廿七日

外務大少丞

魯西亞國領事

ヲテ口一スキ一貴下

廿八日

○大藏卿伊達宗城欽差全權大臣トシ條約取結  
 ノ夕ノ清國へ被差遣  
 ○外務大丞柳原前光刑部中判事兼外務權大丞  
 津田真道為差副同行被 仰付  
 ○文書權正鄭永寧隨行被 仰付  
 ○從四位柳原前光叙正四位



○正六位津田真道叙從五位

○從七位鄭永寧叙正七位

○文書大佑穎川重寬外務權大錄齋藤知一文書

權大佑穎川雅文文書少佐津久井遠外務權少

錄土子豊憲清國行隨從被申付

廿八日

○丁株領事へ往翰

以手紙致啓上候然ハ貴國軍艦品川灣へ入津

候ハ、過日御申越ノ通答砲支度等モ有之候

間品川灣へ被相廻候日限時刻等前以御報知

有之候様致シ度存候右可得御意如此御座候  
以上

辛未四月廿八日

外務大少丞

丁株國總領事

イバウキル貴下

晦日

○獨逸譯司ノ來翰

以手紙致啓上候然ハ拙者昨廿九日出府致シ

五六日間滯留可致存候就テハ出行ノ節護送

ノ士官被備置候様御所置被下度相願候右可



得御意如此御座候以上

獨逸北部聯邦公使館譯司

明治四年四月晦日

外務大少丞貴下

追啓拙者旅亭ハ築地獨逸國領事ベイヤ氏

方ニ御座候以上

○伊太利公使ノ來翰 月返三翰 日在五

以手紙致啓上候然ハ我政府ヨリ暇ヲ得當分

歸國ノ夕メ今月二十二日致出立就テハ我留

守中エフブルニ我政府ノ命ニヨリ貴國ニ

係候交際事務為取扱候夕メ副領事ニ任シ置

候間是迄ノ如ク不相替御交情御引立被成下

度相願候此段得御意度如此御座候以上

千八百七十一年第六月十七日

在橫濱

伊太利國代理公使

シロベツキ

外務卿

閣下

外務大輔



外務省日誌辛未第九号

往復書翰目錄

一 英國ヘンリー・エスキング社中ヨリ書籍買入  
送越來翰一丁

一 伊太利公使ヨリ當分歸國ニ付留守中ブリエ  
ンヘ交際事務取扱ヲ任スル旨來翰全

一 右返翰ニ丁

一 米國在留我國領事ヘコットルヨリ書籍獻供セ  
シニ付謝詞申送ル返翰ニ丁

一 英國公使ヨリ養蚕場遊覽ノ儀ゴベルトソニ



一 布哇惣領事ヨリ同人辭職并同國卜條約取結  
 / 儀ニ付來翰 全

ヲ代人トシテ差遣旨來翰 四丁

一 右返翰 全

一 佛國譯司ヨリ同國士官ク口ゼ於山口蕃雇入

/ 儀ニ付來翰 五丁

一 各國公使へ清國へ使節被差遣ニ付往翰 六丁

一 英公使ヨリ右復翰 七丁

一 米公使ヨリ右復翰 八丁

一 英國公使ヨリ領事養蚕場遊覽出發日限等ノ

來翰 九丁

一 右返翰 十丁



外務省日誌 明治四年辛未第九号 自五月朔日

五月朔日 洋曆一千八百七十一年第六月十七日

○文書權正平井希昌新潟出張被仰付

○外務史生西川定則隨從同行被申付

二日

○英國ヘンリ、エス、キング社中ノ來翰

以手紙致啓上候然ハハ口ニ存ニシ一ポルト  
ノ頼ニ付本日日出帆ノ郵船ニテ貴政府ノ夕メ  
買上候一箱ノ書籍閣下ハ差進申候右ハ無恙



貴國へ到着可致存候且又同人ヨリ右書藉代  
料書貴政府へ差出候へバ倫敦府在留貴國辦  
務使ヨリ拂方可相成旨拙者へ申越候則右書  
藉目録ノ寫トモ御承知ノ夕メ差上申候右可  
得貴意如斯御座候以上

千八百七十一年第四月十五日

ロンドン府下

ヘンリ、エスキング社中

外務卿閣下

二日

○伊太利公使ノ來翰 三返日翰在

一筆致啓上候然ハ拙者今般我政府ヨリ暇ヲ  
得當分歸國致シ候ニ付今月二十二日出帆致  
シ候附テハ特派全權公使ゴントフエモ不遠  
貴國へ立戻リ可申候間夫迄ノ處副領事ブリュ  
ニ一ヲ公使代務ト致シ置公務為取扱候間萬  
事同人へ御引合被下候様致シ度此致得御意  
度如斯御座候以上

千八百七十一年第六月十七日於橫濱

伊太利國代理公使



シロベッキ

外務御

外務大輔

閣下

三日

○伊太利國公使へ返翰

千八百七十一年第六月十七日附貴簡落手致

披見候然ハ閣下今般貴國政府ノ暇ヲ得本月

廿二日御出帆御歸國被成候ニ付特派全權公

使コントフエ氏我國へ御再渡相成候迄ノ處

萬事通信ノ儀ハ副領事ブルニ一氏ヲ公使代  
務トシテ御接待可申旨御申越ノ趣致承知候  
此段回答如此御座候以上

辛未五月三日

外務大輔

外務御

伊太利國代理公使

シロベッキ閣下

○乘扶蘭斯哥在留日本領事へ返翰

千八百七十一年第五月一日附貴簡落手致披

見候然ハ「カルフォルニヤ」人ホラー「スエスコット」



ニ。皇<sup>天</sup>陛下へ献上致シ度旨書籍壹函書簡相副御

申越ノ趣致承知乃チ右書簡翻譯ノ上書籍共

備

睿覽候処格別注意ノ裝飾懇切ノ段御満足被

遊候就テハ貴下御書中コツトル氏

陛下ノ御寫眞像頂戴ノ趣ニハ候へ共御寫

眞像ノ儀ハ未夕御寫シ無之候間折角ノ懇願

ニハ候へ共此儀ハ何分不相叶儀ニ有之依テ

別紙目錄ノ物件右厚意ニ被爲報候間貴下ヨ

リコツトル氏へ御渡シ前顯ノ趣可然御演說有  
之度存候此段外務卿ノ命ニ因リ回答旁可得  
御意如此御座候以上

明治四年辛未五月三日 外務大少丞

大<sup>米</sup>日<sup>國</sup>本<sup>兼</sup>領<sup>扶</sup>事<sup>蘭</sup>斯<sup>哥</sup>在<sup>留</sup>

チャルレスウォルコツトブルークス貴下

別紙目錄略

○英國公使ノ來翰

以手紙致啓上候然ハ閣下御存ノ通り拙者儀  
公使館次官勤彼中貴國養蠶方穿鑿ノ夕ノ先



年以來每度其本場遊歴致候事有之猶當年モ  
 同所へ可罷越管ノ處多端ノ折柄不得寸暇右  
 二付神奈川在留權領事口ベルトソニ氏ヲ拙  
 者代人トシテ上野武藏處々遊覽申付候間左  
 様御承知可被下候尤同人儀我英國人三四名  
 同道致シ數日後東京發尾可致彌日限決着次  
 第御吹聽可申候へ共先ツ道中差支無之様御  
 取計被下度候右之趣可得御意如此御座候以  
 上

五月三日 大貌列顛國代理公使

外務御閣下

エスオアムス

四日

○英國公使へ返翰

五月三日附御手紙致披見候然ハ今般我國養  
 蠶方穿鑿ノ夕メ閣下ノ代人トシテ神奈川在  
 留貴國權領事口ベルトソニ氏へ上野武藏處  
 々遊覽被申付尤貴國人三四名同道彌日限決  
 着次第御報知可被成ノ趣致承知候即子共筋  
 へ相達可申候間同道ノ人数并ニ發程日限御



決定ノ處可成文前廣御申越可有之候且又上  
野武藏處々ト有之候テハ行先不分明ニテ違  
方不都合ニ有之候間御目的ノ處御申越有之  
候様致度候右回答可得御意如此御座候以上  
辛未五月四日 外務御

大貌列顛國代理公使

アダムス閣下

五日

○佛國譯司ノ來翰

以手紙致啓上候然ハ山口藩ヨリ兵式教師ト

シテ我國士官ク口出御雇入相成度儀公使ヨ  
リ我政府へ掛合置候間政府ノ免許有之候迄  
ハ同藩ノ願ニ從テ我水師提督ト相談ノ上當  
分ノ内同藩ノ依頼ニ相任セ申候此段公使ヨ  
リ被命候間外務御大輔閣下へ可然御通達可  
被下候右可得御意如此御座候以上

五月

佛蘭西國公使館附

ヂブスケ

外務大少丞御中

七日



○各國公使へ往輪在英十二復日輪

以手紙致啓上候然ハ清國ノ儀ハ隣近ニシテ

彼我人民モ相往來通商スベキヲ以テ各國ノ

條約ヲ準據トシ通信通商貿易ノ章程ヲ修セ

ンテ欲シ今般我

天皇陛下特ニ大藏卿伊達宗城ヲ其全權ヲ委

シ彼國へ被差遣候就テハ不遠發帆可致候條

彼地ニ於テ御賴談申候節ハ厚ク御配慮被成

下候様彼國在住ノ貴國公使へ御申入被下度

且又往返共船便ヲ以テ上海へ立寄候ニ付同

所在住貴國領事へ正是又御序ヲ以テ可然御

申入被下度任御懇意及請求候此段可得御意

如此御座候以上

明治四年辛未五月七日

外務大輔  
外務卿

- 大貌列顛國
  - 佛蘭西國
  - 米利堅合衆國
  - 獨逸北部聯邦
  - 荷蘭國
- 公使閣下



追啓今般被差遣候使節ノ儀ハ「工」ニウオム「工」キ  
 ス「夕」ヲオ「ル」ジ「子」ル「工」ン「ド」ミ「ハ」ス「ト」ル「プ」レ「ニ」  
 ホ「タ」ン「シ」エ「ル」ノ「職」ト「同」様「ニ」候「將」又「隨」行「ノ」官  
 員「ハ」外「務」大「丞」柳「原」前「光」外「務」權「大」丞「津」田「眞」道  
 文「書」權「正」鄭「永」寧「其」他「六」七「名」ニ「御」座「候」此「段」モ  
 得「御」意「候」以「上」  
 八「日」  
 ○新「潟」縣「大」參「事」本「野」盛「亨」任「外」務「權」少「丞」叙「正」七  
 位  
 十「二」日

○中「辦」山「口」尚「芳」外「務」少「輔」心「得」ヲ「以」テ「同」省「專」務  
 被「仰」付  
 ○英「國」公「使」ノ「復」翰  
 去「ル」七「日」附「ノ」貴「翰」致「披」見「候」然「ハ」貴「國」ト「清」國  
 近「隣」ニ「付」双「方」ノ「商」民「交」際「往」復「有」之「ヲ」以「テ」貴  
 政「府」ニ「於」テ「西」洋「各」國「ノ」條「約」ニ「準」シ「交」易「通」商  
 交「際」ノ「規」程「被」設「度」右「ニ」付「貴」國  
 天「皇」陛「下」大「裁」御「伊」達「宗「城」ニ「全」權「ヲ」被「與」不「遠  
 清「朝」ハ「被」差「遣」候「趣」致「承」知「候」右「ノ」段「御」請「求」ニ  
 應「シ」早「速」北「京」在「留」我



皇帝陛下ノ代理公使且上海在留領事ハ御來  
諭ノ趣申遣候間前兩人ニ於テ可成丈周施可  
致事必然ニ被存候右為回答可得御意如此御  
座候以上

六月十二日

大貌列顛國代理公使

エスモアダムス

外務御

外務大輔

閣下

○米國公使ノ復翰

千八百七十一年第六月十四日附尊簡致落手

候陳ハ清國ト條約御取結ノ夕ノ使節御差遣

ノ事ニ

天皇陛下御決定被遊候ニ付今般伊達大藏卿

京城閣下ヲ特派全權公使ニ被任柳原前光津

田真道鄭永寧其他隨行人員彼地ハ被差遣

候ニ付テハ右使命行届候様盡力可致旨北京

在留米國公使并上海在留惣領事ハ申遣候様

御頼談ノ趣承知早速夫々申遣候様可致候清

國ノ儀ハ貴國ト近隣ニモ有之候間兩政府ノ

間ニ正當適宜ノ條約御取結相成候様彼地在



留米國政府ノ官員何レモ懇ニ貴國使節ニ力  
ヲ添候儀相違有之間敷存候將又  
天皇陛下英戈ノ使節御擢撰相成欣然ノ至リ  
ニ存候右回答可得御意如此御座候以上  
千八百七十一年第六月廿六日  
米利堅合衆國特派全權公使  
シムゲロング  
外務御  
外務大輔  
閣下  
○英國公使ノ來翰

以手紙致啓上候然ハ此度我國橫濱在留領事  
代理公使名代トシテ武藏上野處々養蠶方穿  
鑿遊覽ノ儀ニ付先達テ縷々申上候處人員遊  
行ノ地名并出立ノ日限御承知被成度旨了承  
致候則都合四人罷越來ル十五日東京發足ノ  
積リ且道中ノ儀別紙ノ通り通行致シ候間可  
然御下命被下度存候右可得御意如斯御座候  
以上

大貌列顛國代理公使

五月十二日

エヌオアダムス



外務御閣下

別紙

河越 小川 小鹿野 下仁田 富岡 安中

高崎 前橋 島邨

但歸路ハ中山道ニ候間左様御承知可被下

候

十三日

○英國公使ハ返翰

我五月十二日附貴翰落手然ハ横濱在留貴國

領事閣下ニ代リ武藏上野處々養蠶方○改方遊覽

ノ夕ノ都合四人來ル十五日當地出立被致候

段御申越ノ趣宿駅其外共差支無之様下命致

シ置候此段御報可得御意如此御座候以上

五月十三日

外務御

大貌列顛國代理公使

工乃木アダム閣下

○來壬申年條約改定ノ期限ニ付再議可致旨各

國公使領事等ハ報知ス



外務省日誌 辛未第十号

往復書翰 目錄

一 米國公使ヨリセーラムス、アンドボン著述書獻  
備ノ來翰 一丁

一 英國「セクレタリ」ハ兵庫津浪報知ノ往翰并  
別紙ニ丁

一 英國公使ヨリ獄制質問トシテ香港等ハ刑部  
官員被遣ニ付譯官トシテホルル氏ヲ差越ス

旨來翰 四丁  
一 英國公使ヨリ兵庫津浪ノ復翰 全



一 米國公使へ法律家雇入ニ付周旋依頼ノ往翰  
 五丁  
 一 壤地利公使ヨリ「フロレンズ」ニ於テ電信會盟  
 ノ席へ日本官員出會有之度旨來翰 五丁  
 一 佛國公使へ兵部省ニ於テオウル雇入度ニ付  
 免許依頼ノ往翰 七丁  
 一 英國「セクレタリ」へ刑部官員香港等へ出帆  
 ニ付同國公使ヨリ兩所鎮臺へノ添書受取ト  
 シテ囚獄權正等參館ノ旨往翰 八丁

外務省日誌 明治四年辛未第十号 至自 五月十九日  
 五月十九日 洋曆一千八百七十一年第七月六日  
 ○ 米國公使ノ來翰 月返 二翰 日在 六  
 以手紙致啓上候然ハ先便我政府ヨリ貴國政  
 府へ獻納致シ度旨ニテ我國有名ノ理學者七  
 一ムスアンドボン著作ノ書籍全部但シ着色  
 圖入北亞墨利加產禽類ノ部七冊同獸類ノ部  
 三冊拙者方マテ送越右獻納方ノ儀取計ヒ可  
 申段拙者へ申付越候ニ付則右書籍入壹箱閣



下迄致拜送候右ハ極ノテ菲薄ノ品ニ有之候  
 ハ共聊我政府ノ芥意ヲ表シ候迄備  
 天覽候儀ニ付自然右ノ書籍  
 聖慮ニ相適ヒ候ハ、榮申不過之此段可然御  
 執奏被下度相願候右書籍ノ箱海路運送ノ間  
 損傷致シ候ニ付無餘儀當方ニテ他ノ箱ハ入  
 替拜送致シ候間外箱粗末ノ段御海容被下度  
 右可得御意如此御座候以上  
 千八百七十一年第七月六日  
 在横濱

10 20 (Y H 特製)

米利堅合衆國特派全權公使  
 以ノデロシグ  
 外務御  
 外務大輔閣下  
 十四日  
 ○英國「セクレタリ」ハ往翰并復七翰日在  
 以手紙致啓上候然ハ當十八日別紙ノ通り兵  
 庫縣津浪押來リ所々及大破候趣同縣ヨリ届  
 出候就テハ貴國<sup>人</sup>ニモ損害無覺束被存候間不  
 取敢別紙相添此段及御報告候可然貴公使ハ



御通達有之候様存候右可得御意如此御座候  
以上

辛未五月廿四日

外務少丞

大貌列顛國ジヤパニースケレタリ

サトウ貴下

尚々右事件ニ付不取敢山口中辨儀明日郵便

ニテ同所へ出張致候間此段モ序ニ任セ申入

候以上

別紙

當十八日四ツ半時頃ヨリ暴風大雨逆浪ヲ起

1020 (YH特製)

シ九ツ時頃ヨリ益烈敷兵庫神戸兩港俄ニ津

浪押來リ海岸通り道上凡五尺餘ノ出水港内

ニ繋リ居ル蒸氣帆前御國船大半海岸へ打揚

ケ夫カタメ海岸通り御國人外國人家居打毀

チ潰レ家或ハ半潰レノ家又ハ流失等有之居

留地海岸石垣聊モ不殘押崩シ當時築造罷在

候波戸場并ニ石垣トモ過半押崩シ外國川蒸

氣船七八艘陸路へ打揚ケ打崩シ居留地ノ儀

モ海岸筋ハ不損館舎迎ハ壹軒モ無之縣廳并

外國事務局ハ先無難ニ候へ共小破損ハ數多



有之假運上所皆潰レ第三波戸場荷物改所并  
二兵庫港改番所二夕所共流失其他関門番所  
数ヶ所御藏米運上所貸庫等破損外國帆前船  
壹艘港内二於テ沈没溺死人七十人餘有之候  
由御國船モ数艘沈没溺死人怪我人等可有之  
候ハ共未夕取調難出來漆川新舊生田川ハ先  
別條無之居留地モ海岸ノ外ハ小破損ノミニ  
テ為差儀モ無之候差向流失潰レ家極難溢人  
等ハ焚出シ粥相與ハ救助方取計申候尤右ノ  
外當縣管下海岸附屬村々定テ同様ノ儀ト深

夕心痛罷在候追々訴出次第取束子巨細ノ儀  
ハ引續キ取調可申上候右未曾有ノ天變外國  
關係ノ場所柄ニ付不取敢急便ヲ以テ此段御  
届申上候以上

辛未五月

兵庫縣

辨官御中

○英國公使ノ來翰

以手紙致啓上候然ハ公使ハバク又歸國前貴  
政府ニ於テ我國ノ屬國香港并新佳法ニテ相  
用候獄制及亂問方質問トシテ刑部省官員被



差遣候ニ付旅中譯官御世話可致様御依頼有  
之候事閣下御存ノ通りニ有之右ノ業ニ付當  
分築地領事勤方ホ一ル儀ヲ貴國來月八日ヨ  
リ御用立可申且前書兩屬國權鎮臺へ添書相  
認差進可申候此段可得御意如斯御座候以上

大貌列顛國代理公使

五月廿四日

工不才アダムス

外務御閣下

廿七日

○英國公使ノ復翰

去ル廿四日ノ貴翰致披見候然ハ去ル十八日  
神戸不慮ノ天變有之候次第被御申越御厚意  
ノ段辱存候右内外ノ人民災難ニ罹リ候儀心  
痛ニ存候右公使ノ命ニ因リ為回答可得御意  
如此御座候以上

大貌列顛國公使館

五月廿七日  
工ル子ス卜廿卜ウ

外務少丞貴下

○米國公使へ往翰  
以手紙致啓上候然ハ我政府ニ於テ貴國法律



廿八日

○ 瓊地利公使ノ來翰 月返五輪日在六

以手紙致啓上候然ハ去ル辰年六月二日「ビエ」  
 於テ取結候條約ニ基キ我政府當節各國  
 電信會社ノ世話致候ニ付同社ヨリ我政府ハ  
 左ノ趣申立候趣貴國三月十六日我國執政兼  
 外務大臣カンデポイストヨリ拙着迄申來候  
 則其趣ハ今般貴國近海ニ於テ起業致シ居候  
 電信ノ大業ハ萬國ノ利益ニ關係致候事ニ付  
 前書條約ノ通り來ル西洋九月「プロレン」表

家壹人雇入度旨過日大隈參議橫濱出張ノ砌  
 及御頼談置候通り右人物精選ノ儀貴政府ハ  
 御依頼致度候間可然御周旋有之度最共旨少  
 辨務使ヨリモ貴國政府ハ申立候様申遣候間  
 其御心得ヲ以テ御配慮相成候様致度希望ス  
 ル所ニ御座候此段可得御意如此御座候以上

辛未五月廿七日

山口中辨

外務御

米利堅合衆國特派全權公使

シムデロング閣下



各國電信會社出會ノ席ハ貴國朝廷ヨリモ  
 官員御差出相成度旨ニ有之候尤右ハ過日東  
 京在留荷蘭兼丁抹公使フアンドルフエニ氏  
 ヲリ假リニ御掛合申候処會盟ハ表立御招待  
 可申段御申聞ノ趣依之各國電信右會盟ノ名  
 代タル我政府ノ命ヲ以テ閣下ハ左ノ趣申入  
 候  
 一若貴國政府ニ於テ各國電信會盟ニ御加リ被  
 成度節ハ其段會盟ノ會社ハ御報知可有之未  
 夕出會不相開候節ハ其名代タル我政府ハ御

掛合可有之候則右ハ前書條約書ノ規則ニ御  
 座候  
 一都テ會盟ニ加リ度節或ハ自分ニテ既ニ設立  
 ノ電信局有之或ハ民間ニテ取建候電信社中  
 有之候ハ其名代トシテ是非賃銀規則勘考  
 ノ夕メ差出可申候  
 一貴國政府ハ未夕前書條約ニ依リ右會盟ニ御  
 加入ノ御用意無之トモ來ル西洋九月フ口レ  
 ンズニ於テ出會有之候會盟ノ席ハ當時歐  
 羅巴御在留ノ官員一名ヲ被差出各國會盟ノ



規則并施行ノ仕方且各國社中約束ノ趣旨ニ  
 御注意有之候ハ猶追テ貴國政府御評議ノ  
 一助ニ相成獨リ貴國政府ノ夕ノミナラス  
 普ク各國ノ所望御座候  
 右ニ付末文ノ箇條閣下ニ於テ御承知有之書  
 翰ニテモ又電信機ニテモ右在留ノ官員ハ御  
 下命有之度趣ニ有之候且御回答ノ趣拙者ヨ  
 リ電信機ニテ可申遣様被命候間一日モ早夕  
 御回答有之度存候尤前書各國電信會盟ハ獨  
 立各國ノ政府ノミニテ出會ノ儀ハ其使臣ノ

ミニ有之候此段可得御意如此御座候以上

在上海

壤地利兼洪葛利代理公使

五月十八日

エツ夫カリツス

外務卿閣下

外務大輔

廿九日

○佛國公使ハ往翰月復朔翰日在六

以手紙致啓上候然ハ我兵部省ニ於テ新兵々  
 式教師トシテ貴國士官才ウル氏雇入度就テ



ハ貴國政府ニ於テ御免許被下候迄當分ノ内  
閣下ヨリ御免許ノ儀御取計有之度旨同省ヨ  
リ申越候間其段貴國政府ハ御申立有之度且  
御免許有之候迄ハ前顯ノ通り御取計有之候  
様御依頼致シ候右可得御意如此御座候以上

辛未五月廿九日

外務御

佛蘭西全權公使

マキシムウートレ閣下

○英國「セクレタリ」ハ往翰

以手紙致啓上候然ハ別紙刑部省官員來月六

日船便ニテ香港新佳法<sup>ガホ</sup>ハ出帆ノ儀決定致シ  
候ニ付テハ右兩所鎮臺ハ貴公使ヨリノ御添  
書明晦日第二字貴館ニ於テ御手渡被成候趣  
同省ハ申遣候處小原因獄權正右刻限參館可  
致旨答越候間此段申進候可然貴公使ハ御通  
達被成置度存候右可得貴意如此御座候以上  
辛未五月廿九日 外務少丞  
大貌列顛國公使館  
廿トウ貴下  
追テ此度渡航スハキハ左ノ三名ニ有之候



外務省日誌辛未第十号附錄

○七月四日第四号於延遠館布哇國條約書調印  
為取替了り列座左ノ如シ

全權大臣

外務 卿澤 宣嘉

全

外務大輔寺嶋宗則

傳譯

外務權少丞石橋政方

囚獄權正小原重哉

刑部權大録天野御民

刑部少録小菅榮修







本國
天皇陛下政府ノ下ニ在ル特派全權公使ニ任
シ雙方互ニ其委任狀ヲ示シ其情實順正適當
タルヲ察シ以テ左ノ條々ヲ同意決定セリ
第一條
大日本國
天皇陛下ト布哇諸島
皇帝陛下各其後嗣并兩國人民ノ間ニ永久ノ
平和無究ノ親睦アルベシ
第二條

爰ニ條約ヲ結ベル兩國ノ臣民ハ他國ノ臣民
ト交易スルヲ許セル總テノ場所諸港及ヒ河
々ニ其船舶及ヒ荷物ヲ以テ自由安全ニ來リ
得ベシ故ニ兩國ノ臣民右諸港諸地ニ止リ且
住居ヲ占メ家屋土藏ヲ借用シ又之ヲ領スル
事妨ケナク諸種ノ產物製造物商賣ノ法令ニ
違背セザル商物ヲ貿易シ他國ノ臣民ニ己ニ
許セシ或ハ此後許サントスル別段ノ免許ハ
何レノ廉ニテモ他國へ一般ニ許容スルモノ
ハ兩國ノ臣民ニモ同様推及スベシハ爰ニ條



約ヲ結ヘル兩國ニ領内ニテ事業ヲ營ミ或ハ  
居留スル他國ノ臣民ヨリ取立ツベキ租税ハ  
常ニ拂フベシ

第三條

爰ニ條約ヲ結ヘル兩國若然ルベキト思ハハ  
テプロマチックエゼントヲ命シ兩國政府ノ  
首府ニ在留セシムベシ又「ゴンシユル」或ハ「  
シユル」エゼントヲ命シ國中ニテ他國臣民ト  
貿易スル事ヲ許セル諸港或ハ諸場所ニ居留セ  
シムベシ右兩國ノ「ゴンシユル」或ハ「ゴンシユル」

ゼントハ他ノ最モ懇親ナル國ノ同位階ヲ有  
セル「ユゼン」トノ今現ニ得タル公理別段ノ免  
許免除自由ノ殊典ヲ得ヘシ或ハ此後得ベキ  
モノモ亦然リトス

第四條

大日本國  
天皇陛下ヨリ他國或ハ臣民ニ免許シ或ハ向  
後免許スベキ諸事ハ布哇政府及ヒ其臣民ニ  
モ同様ニ之ヲ推及スベキコトヲ爰ニ約セリ

第五條



布哇人ハ日本人ヲ雇ヒ是ヲ法度ニ於テ禁セ  
ザル諸用ニ給スル事日本政府ニ於テ之ヲ妨  
ザルベシ

第六條

外國雇置ク日本人開港場知事ニ願出レハ海  
外行ノ印章ヲ得ベシ

第七條

爰ニ條約ヲ結ヘル兩國此條約ノ趣ヲ實地經  
驗ノ上何レノ方ニテモ不都合ノ虞アルヲ知

ラハ六ヶ月前ニ報知シ双方協議ノ上改定ス

ヘシ

第八條

此條約ハ大日本國

天皇陛下ト布哇諸島ノ

皇帝陛下互ニ確證シ本書ハ東京ニ於テ此條

約ト同日ニ取替セリ又此條約ノ趣ハ右本書

取替セノ日ヨリ直ニ施行スヘシ

右證據トシテ大日本明治四年辛未七月四日

西曆千八百七十一年第八月十八日東京ニ於

テ雙方ノ全權此條約二名ヲ記シ印ヲ調スル



正ノ也

從三位守外務御清原朝臣宣嘉印

從四位守外務大輔藤原朝臣宗則印

千ヤルレス、イデロシダ印

今般朕カ委任全權ノ重臣ト布哇國大皇帝ノ

特派全權公使ト會議シ取結ハセタル大日本

國ト布哇國和親貿易ノ條款親シク通覽シテ

至當トス故ニ悠遠無窮之ヲ遵守セシコトヲ

約スコレヲ定證セシカ為メ朕カ名ヲ記シ大

日本國ノ印章ヲ鈐ス

明治四年辛未七月四日

御諱 玉璽

奉勅從一位右大臣藤原朝臣實美花押

○英佛獨魯語學修業相願度向ハ來八月廿五日迄ニ可罷出事

但シ生徒十四歳ヨリ二十一歳ヲ限リ其他法則ノ儀ハ當校ニ揭示有之ニ付罷出見聞



可致事

辛未七月

外務省

語學所

外務省日誌辛未第十一号

往復書翰目錄

- 一 佛國公使ヨリ於兵部省才ウル雇入ノ儀ニ付復翰一丁
- 一 荷蘭兼丁抹公使ヨリ維也納電信會議ハ我官員出會有之度旨來翰
- 一 米國公使ヘセムスアンドボン書藉獻供ニ付謝詞返翰三丁
- 一 米國公使ヨリワシントンテリトリヨリ可裝置海底電信線箱館其他ノ港へ陸揚免狀請



求ノ來翰 四丁

一英國公使ヨリ海軍醫官ニウトニ死去徽毒病

院ノ事ニ付流言消除致シ度旨來翰 五丁

一荷蘭兼丁抹公使へ電信會盟へ我官員差出方

返翰 六丁

一埃地利公使へ電信會盟へ我官員可差出旨返

翰 七丁

一各國公使領事へ内地旅行ノ節相對賃錢可相

拂旨往翰 八丁

一英國公使ヨリ醫官セシウキ徽毒病院醫師ニ

ウトニノ後任下命ノ旨來翰 九丁

一瑞西領事ヨリ同國人病氣ニ付醫師證書相添

伊香保温泉へ趣カセ度旨免狀請求ノ來翰 十

丁

一右返翰 十一丁

一英國公使へ醫官ニウトニ死去且徽毒病院ノ

事ニ付一時無根ノ流言有之右處分可致旨返

翰 十二丁

一英國公使へ徽毒病院ニウトニ後任トシテ七

ジウキへ下命ノ旨承知ノ返翰 十三丁



外務省日誌

明治四年辛未第十一号

自六月朔日至十月

六月朔日 洋曆一千八百七十一年第七月十八日

○佛國公使ノ復翰

御書翰致落手候然ハ我國士官才力ハ氏御親  
 兵教師トシテ貴政府ハ勤仕ノ儀免許可致様  
 御依頼ノ趣承知同人儀免職相成候ニ付當日  
 ヨリ東京兵部省ニ於テ御使用可被成候此段  
 早々御報知申入度右御報可得御意如此御座  
 候以上



佛蘭西國全權公使

六月朔日 マキシムウートル

外務卿閣下

○荷蘭兼丁抹公使ノ來翰

以手紙致啓上候然ハ今般瓊地利ノ書記ガ  
 一フペンストヨリカリス氏ニ贈レル書翰  
 ノ寫拙者迄送り越致閱見候処維也納ノ會議  
 ニテ丁抹政府都テ電信機ノ事務ヲ瓊地利ノ  
 政府ニ致依托候趣相見エ貴政府ニテモ此度  
 フロレンズニテ相開候電信機一條ノ會議ハ

御加ハリ相成官員御差出有之度旨瓊地利政  
 府ヨリ御依頼致シ候趣右書中ニ詳載有之候  
 尤右官員御差出相成候上ハ貴政府ニテ右電  
 信機御引請可相成時期ノ御約束モ出來候趣  
 又此一件ニ付御望ノ趣モ有之候ハ右會議  
 ノ席若シクハ依托ヲ受タル政府ハ瓊地利御報  
 知被成候儀モ出來候趣詳載有之候右出席ノ  
 儀フロレンズニテ會議相開居候内ニ當時歐  
 羅巴在留官員ノ一人ニ御依頼相成萬國電信  
 機接合裝置ノ事ヲ注意セシメ各國ト會社ノ



不會議ニ官員御差出シ相成候ヘハ大ニ氣受  
 毛宜ク貴國開化進步ノ徵ヲ表シ各國ニテモ  
 必ズ感佩可致存候依之拙者右填地利政府懇  
 願ノ趣御熟考ノ上御承諾有之候様敢テ御懇  
 ノ申上候貴政府ニテ其臣下ノ内何人ニ右御  
 下命相成候哉承知不致候ニ付此部電信社ノ  
 長千クトゲン氏ハ御任シ有之候ヘハ御都合  
 ニモ相成候事ト存候旨申入候尤同人ハ其任  
 ニ堪エベキ人物ニテ固ヨリ無異存了承可致  
 候右填地利書記ヨリ相遣シ候書翰ノ趣ハ英

任様ヲ知リ又貴政府御請求ノ趣ヲ決定相成  
 候ヘハ貴政府ノ御都合相成候ノミナラズ歐  
 羅巴各政府ノ望ミニモ相適シ可申旨同書中  
 ニ相見エ申候過日御面晤ノ節貴政府ニテモ  
 右電信機會議ノ列ニ御加リ相成候旨陳述致  
 シ置候儀ニ御座候附テハ拙者其節申述置候  
 趣今猶茲ニ申進候貴政府其會議ハ官員御差  
 出シ相成候共其席上ニテ事ヲ決スルニ及ハ  
 ス政府ニテ可然ト御推考有之候通り進テ御  
 決定相成不苦候雖然貴政府ニテ右「フ」ロレ  
 ン



國公使ヨリ御咄可申候右可得貴意如此御座  
候以上

千八百七十一年第七月十四日

於橫濱

丁株兼任公使

ワン  
ンドル  
フー  
フエン

外務御

閣下

外務大輔

二日

○米國公使へ返翰

千八百七十一年第七月六日附貴翰致落手候  
然ハ貴國有名ノ理學家ゼームス、アードボ  
氏著述ノ書籍禽獸兩部合テ十冊貴政府ヨリ  
我  
天皇陛下へ御進贈被成候段懇々御申越ノ趣  
致承知候即チ及執奏候処  
天皇陛下ニ於テ深ク感悦厚ク謝詞可申入被  
命候ニ付此段閣下迄申入候尤右御答札ノ品  
新規申付置候間出來次第閣下迄可差進候へ  
共先不取敢右謝詞申入候此段可然貴政府へ



御申入有之度右可得貴意如斯御座候以上  
辛未六月二日 外務 御

米利堅合衆國特派全權公使

チャールズ・スミス・デロング閣下

四日

○米國公使ノ來翰 十返五翰 日在

以手紙致啓上候陳ハ亞細亞洲貿易上ノ電信

機社中總代トシテハ、ハ、ライス氏調印ノ願書

差出候ニ付合衆國「ワシントン」テリトリヨ

リ貴國ハ海底線裝置致シ候夕メ箱館又ハ他

ノ港ハ電信線陸揚ノ免許有之候様右社中ニ  
代リ相願候尤別段ノ免許相求候譯ニハ無之  
樹木其他ノ物品相用候節ハ相當ノ代價相拂  
可申候右免狀ハ先前同様ノ事ニ付他ハ御旨  
與有之候通り簡易ノ免狀ニテ宜ク前文ノ儀  
來月五日當地開帆ノ蒸氣船便ニテ「ワシント  
ン」ハ申遣シ度候間早々御回答有之候様致度  
存候右可得御意如此御座候以上

千八百七十一年第七月廿一日

米利堅合衆國特派全權公使



外務御閣下

シムデロング

五日

○英國公使ノ來翰ハ返翰在

以手紙致啓上候然ハ我國海軍醫官ニウトン  
 儀今般長崎表ニ於テ纒力三日ノ間病床ニ在  
 リテ終ニ致死去候段甚以遺憾此段御吹聴申  
 候閣下御存ノ通去ル辰年以來橫濱ニテ徽毒  
 病院開業ノ事ニ係リ最初種々ノ故障有之候  
 ハ共始終盡力勵精内外人民ノ為裨益ノ業ヲ

遂ケ候ノミナラズ猶此業ヲ継キ貴國中不幸  
 ニ流布スル傳染病ヲ療スル一助ト可相成貴  
 國ノ醫師數人ヲ成育致シ候右功業ヲ貴政府  
 ニ於テモ御賞美被成候證據ニハ此度東京ニ  
 テ徽毒病院御取建ノ儀御決定相成候ニ付テ  
 ハ右同人ハ御依頼被成度御含ノ趣傳承全ク  
 實事ニ可有之存候就テハ舊冬同人儀長崎ハ  
 罷越同人立合ニテ前書傳染病ヲ療治スヘキ  
 病院相開候処其後右病院俄ニ開院相成候ニ  
 付猶先般再應長崎ハ罷越候處既ニ拙者口上



ヲ以テ閣下へ申入候通當人ノ儀ニ付鄙劣ノ  
 纒言民間ニ流布致シ候段相聞候此護言ノ委  
 細ハ閣下モ御存ノ事ニ候間相略シ申候然ル  
 處去ル五月十六日閣下并山口中辨殿面會ノ  
 砌リ拙者ノ願ニ被應右流言ヲ公ニ消滅スル  
 夕ノ長崎縣へ御下命可有之御約束有之候處  
 當人存命ノ内未夕施行無之甚残念ニ存候乍  
 去閣下ノ如キ公平ノ人ニ御催促致候ハ願ル  
 贅言ニ似夕レ共彌御施行有之候上其段御報  
 知被下候ハ長崎ニ於テ故人ノ事ニ付流布

1020 (Y II 特製)

スル虚説ノ汚名ヲ雪キ候旨我本國政府へ申  
 遣度此段可得御意如此御座候以上  
 大貌列顛國代理公使  
 六月五日  
 エスオアダムス  
 外務御閣下  
 ○荷蘭兼丁抹公使へ返翰  
 千八百七十一年第七月十四日附第四十四号  
 貴翰落手致披見候然ハ今般壞地利ノ書記ガ  
 テーパペンスト氏ヨリカリース氏へ贈書ノ  
 趣ヲ以テフロレンバニ於テ電信會盟有之候



ニ付我國ヨリモ出會可致旨續々御來諭ノ條々逐一致了知候右ハ奧地利公使ヨリモ懇ニ來報有之素ヨリ望ム所ニ候ハハ官員出席可為致積リニ候ハ共本國ヨリ相發シ候テハ時期ニ可後懸念ニ付倫敦在留我少辨務使附權大記鹽田篤信ハ特例辨務使コ即チ「スツパシヨヤ子ル此ヲ命シ右出會ノ儀委任申遣シ候間同人出會ノ上ハ相當ノ御接遇被下候様閣下ヨリ其筋ハ御書送被下度御依頼申候此段回答可得御意如此御座候以上

辛未六月五日

外務御

丁株兼任公使

ファンゲルフォーエン閣下

○奧地利公使ハ返翰

五月十八日附上海ヨリ被發候貴翰落手致披見候然ハ當節貴國ニ於テ各國電信會盟ノ御世話被致丁株國電信社中ノ周旋ニ依リ來ル西洋第九月「プロレン」ニ於テ各國ヨリ會盟有之ニ付我國ヨリモ出會ノモノ可差出旨貴國內國事務兼外國事務總裁カンドボイスト



閣下ヨリ御傳命ノ趣ヲ以テ縷々御懇説御來  
 示ノ件々委曲致了解候右會盟ハ素ヨリ多少  
 ノ裨益ト被存候間特使可差立ノ処即今本國  
 ヲリ官員差立候テハ期會ニ後レ可申ニ付龍  
 動在留我少辦務使附權大記鹽田篤信ヲ特例  
 辦務使ニ仰ミテツスシヤヨシルルコニ任シ出會可致旨  
 委任狀差送リ申候尤前書會盟ニ依リ其列ニ  
 加ル儀ニハ無之各國會盟規則并施行ノ仕方  
 各國民間社中トノ約束ヲ注意シ猶追テ我政  
 府評議ノ一助ヲ為シ候タメニ差遣候事ニ御

座候就テハ諸事可然御周旋御接待被下候様  
 貴政府へ閣下ヨリ御書送被下度御依頼申候  
 此段回答可得御意如此御座候以上  
 明治四年辛未六月五日 外務 御  
 壤地利國代理公使  
 へンリ、フオンカリツチ閣下  
 追テ本文鹽田篤信へ書通ニテハ期月ニ後レ  
 可申候ニ付電信機ヲ以テ大意申入置候此段  
 御心得可被下候以上  
 ○各國公使領事へ往翰



以手紙致啓上候然ハ我國內驛遞規則從來公  
 私ノ別有之我政府ノ公命ヲ奉シ旅行致シ候  
 節ハ其官ノ高卑ニ隨ヒ人馬トモ定限ノ員數  
 ヲ以テ繼立宿料等總テ定法ノ賃錢相拂旅行  
 致シ候へ共私行即チ公務ニ關ラサル時ハ假  
 令我官吏ト雖モ悉皆其驛々ニ於テ人馬宿料  
 等其時價ヲ以テ相對ニ定メ賃錢相拂候儀ニ  
 テ敢テ其定法ニ據ル事ヲ不得是乃チ公私混  
 淆スバカラザルノ意ニシテ其賃錢ノ定法ア  
 ルハ專テ我官用ニ係リ夫レカタメ政府ヨリ

宿驛へ別段ノ賑恤法立置候儀ニテ遍ク衆庶  
 私用ノ夕メ相設候儀ニハ無之就テハ各國諸  
 官員我國內通行被致候節モ總テ相對雇方ノ  
 賃錢可被相拂筋ノ処其護送ノ者ノ賃錢ト不  
 同有之候ヨリ疑惑候向モ有之由ニ付今般改  
 テ御達置申候此段預メ御心得被下候様存候  
 右可得御意如此御座候以上  
 辛未六月五日  
 外務 御  
 各國公使閣下  
 各國領事ハハ大少丞ヨリ達ス



七日

○米國公使ノ來翰十日輪在

以手紙致啓上候然ハ醫官ニウトシ死去ニ付

我水師提督サアヘンレトケレツト我

皇帝陛下ノ軍艦ヲセラミシ醫官セジウキ氏ニ

ウトシ後任トシテ徵毒病院ニ可勤様致下命

候右ニ付貴政府ニ於テ徵毒病院内外人民ノ

夕メ裨益ノ儀御承知ノ上ハセジウキ氏先任

ニウトシ同様御加勢被下候儀別段申立候ニ

モ及ヒ申間敷存候此段可得御意如此御座候

以上

大貌列顛國代理公使

六月七日

エスオアダムス

外務御閣下

○瑞西領事ノ來翰在返次翰

以手紙致啓上候然ハ當地在留瑞西人某赤痢

相煩ヒ永々苦痛罷在候處療治相受居候醫師

ヨリ温泉ニ浴シ且之ヲ服用可致旨申聞則右

醫師ヨリ差出候別紙證書ノ趣意ニ因レハ上

州伊香保ノ温泉ハ同人治療ノ夕メ最モ功驗



可有之趣ニ付病氣平愈ノタメニ三週日間右  
伊香保温泉へ罷越度旨申出候間右免狀拙者  
へ御送り被下度相願候且同人儀瑞西人從僕  
一人同行可致積ニ付其旨免狀中へ御書載有  
之度是又懇願致シ候右早々御回答被下度如  
斯御座候以上

千八百七十一年第七月二十二日

在橫濱

瑞西聯邦總領事

シブレインワルド

別紙醫師證書

外務大少丞貴下

エツチシール氏ノ病體ニテハ温泉ニ浴シ且  
之ヲ服用治療致候方可然則我診察ノ趣茲ニ  
證明致候且上州伊香保ノ温泉ハ同人病氣平  
愈ノタメ最モ功能可有之候間他ノ温泉ヨリ  
ハ同所ニ趣キ候方可然故ニ此段相勸メ申候  
以上

千八百七十一年第七月十七日

醫師



ユルエツチジョソソ

○瑞西領事へ返翰

千八百七十一年第七月二十日附貴翰致落  
手候然ハ貴國人エツチシール氏病氣療養ノ  
夕メ醫師ノ勸メニ依リ上州伊香保ノ泉泉ニ  
赴キ度旨免狀御請求ノ趣致承知候右病氣治  
療ノ夕メニ候ハ事情無余儀事ニテ制外ノ  
儀ニ候間御請求ニ應シ免狀差進申候右回答  
如此御座候以上

辛未六月七日

外務大少丞

瑞西聯邦總領事

シブレソワルド貴下

免狀寫

瑞西國商人

エツチシール

同國人

從僕一人

右ノ者儀今般横濱ヨリ上州伊香保温泉場迄  
往返共旅行致度旨願出候段聞届候事

辛未六月

外務省印



八日

○英國公使へ返翰

六月五日附貴翰落手致披見候然ハ貴國海軍

醫官ニウトニ氏長崎表ニ於テ死去被致候條

并同氏は迄徴毒病院ノ儀ニ付種々盡力有之

候處長崎病院閉止及讒言流傳ノ儀等縷々御

申越ノ趣致承知候實ニウトニ氏徴毒病院

一條ニ付年來勵精盡力被致候ヨリ内外人民

ノ夕メニ裨益不少儀ハ兼テ致感賞候處今般

俄然死去ニ相成候段痛悼ノ至リニ候備大病

院ノ儀ニ付先頃一時無根ノ流言有之由ニ候

ハ共今日ニ至リテハ追々其療方ノ裨益アル

ヲ開悟致候ヨリ右流言等モ自テ消除致候趣

ニ候ハ共猶虛誣ヲ證シ候様處分可致同所權

知事ハ再可相違候間此旨御了知有之度候右

不取敢回答可得貴意如此御座候以上

辛未六月八日

外務卿

大貌列顛國代理公使

エスオアダムス閣下

十日



○英國公使へ返翰

我六月七日附御手紙致落手候然ハ此程醫官

ニウトニ氏死去被致候ニ付貴國軍艦<sup>7</sup>セラミ

区醫官セシウ<sup>#</sup>キ氏右ニウトニ氏ノ跡<sup>7</sup>徽毒病

院可勤旨御下命被成候ニ付ニウトニ氏同様

心得候様云々御申越ノ趣致承知候右ハ神奈

川縣へ通達可致置候此段回答可得御意如此

御座候以上

辛未六月十日

外務卿

大貌列顛國代理公使

工  
ス  
木  
ア  
ダ  
ム  
ス  
閣  
下







